

## 教育研究評議会（第 62 回）議事要旨

- I. 日 時 2008 年（平成 20 年）10 月 28 日（火）16 時 35 分～18 時 05 分
- II. 場 所 本部管理棟 2 階中会議室
- III. 出席者 亀山学長、小林理事、宮崎理事、酒井理事、高垣外国語学部長、和田地域文化研究科長、田山留学生日本語教育センター長、谷川附属図書館長、栗原 A A 研究所情報資源利用研究センター長、石井教授、藤井(守)教授、相馬教授、成田教授、峰岸教授、小林(幸)教授、金口事務局長の各評議員（合計 16 名）
- IV. 配付資料
1. 教育研究評議会(第 61 回)議事要旨(案)
  2. 国際戦略検討資料
  3. 国立大学法人東京外国語大学外国語学部英語学習支援センター規程(案)
  4. 東京外国語大学訪問調査実施スケジュール
  5. 平成 19 年度に係る業務の実績に関する評価の結果について
  6. 国立大学法人東京外国語大学役員等に関する規程新旧対照表(案)
  7. 概算要求基準における国立大学法人運営費交付金の削減幅を 3 % とする方向の検討について(緊急アピール)

### ○ 教育研究評議会(第 61 回)議事要旨確認について

亀山学長から、教育研究評議会第 61 回議事要旨について、確認願いたい旨の発言があり、これを確認した。

## V. 議 事

### <審議事項>

#### 1. 国際戦略について

宮崎理事から、配付資料に基づき、本学の今後の国際戦略について説明の後、亀山学長から、本戦略を「アクション・プラン 2007」と同様に項目ごとに実現する方向で纏めたい旨提案があり、審議の後、これを了承した。

本戦略に係る主な意見は、大要以下のとおり。

- ・本学が国際化をどう捉え、誰のため、何のために国際戦略に取り組むのかという視点が重要。（学生のための国際化）
- ・留学生が日本で何を学ぶことを求めているのかを分析し、本学として留学生に何が提供できるのかを検討すべき。
- ・日本語や英語と少数言語を含む他の言語の本学としての位置づけを明確にすべき。
- ・学生の卒業後の進路等を考慮し、26 専攻語を活かしつつも英語教育にさらに力を入れていくべき。
- ・各言語の地域の状況や社会からのニーズ、また、本学の卒業生の特色が活かせる分野を正確に分析し、必要とされる人材を国レベルが求めているものよりさらに深い

次元で検討すべき。

- ・本学にしかない研究資源をどういった形で蓄積していかを考えていくべき。

<報告事項>

1. 東京外国語大学外国語学部英語学習支援センター規程の制定について  
高垣学部長から、配付資料に基づき、東京外国語大学外国語学部英語学習支援センター規程の制定について報告があった。
  2. 大学評価・学位授与機構の訪問調査について  
栗田学長特別補佐から、配付資料に基づき、平成 20 年 11 月 13 日 (木) から 14 日 (金) に行われる大学評価・学位授与機構の訪問調査について報告があった。  
なお、出席者へは、訪問調査に先立ち、別途事前説明を行う予定である旨連絡があった。
  3. 平成 19 年度に係る業務の実績に関する評価の結果について  
栗田学長特別補佐から、配付資料に基づき、平成 19 年度に係る業務の実績に関する評価の結果について報告があった。
  4. 東京外国語大学役員等に関する規程について  
青島総務課長から、配付資料に基づき、東京外国語大学役員等に関する規程の一部改正について報告があった。
  5. 国立大学協会関連報告  
亀山学長及び金口事務局長から、平成 21 年度概算要求基準において国立大学法人運営費交付金は、政策棚卸し分を加え、△3%の削減となる旨の報告があった。
- 亀山学長から、次回の教育研究評議会については、平成 20 年 11 月 25 日 (火) に開催する予定としている旨連絡があった。

以上